

あのマクロライド耐性肺炎マイコプラズマは 今どこに？

—2007年～2011年の肺炎マイコプラズマ感染症—

山辺こどもクリニック

山形大学医学部感染症学講座

山形県衛生研究所 微生物部

板垣 勉

松寄 葉子

鈴木 裕 瀬戸 順次

安孫子 千恵子 水田 克巳

<目的>

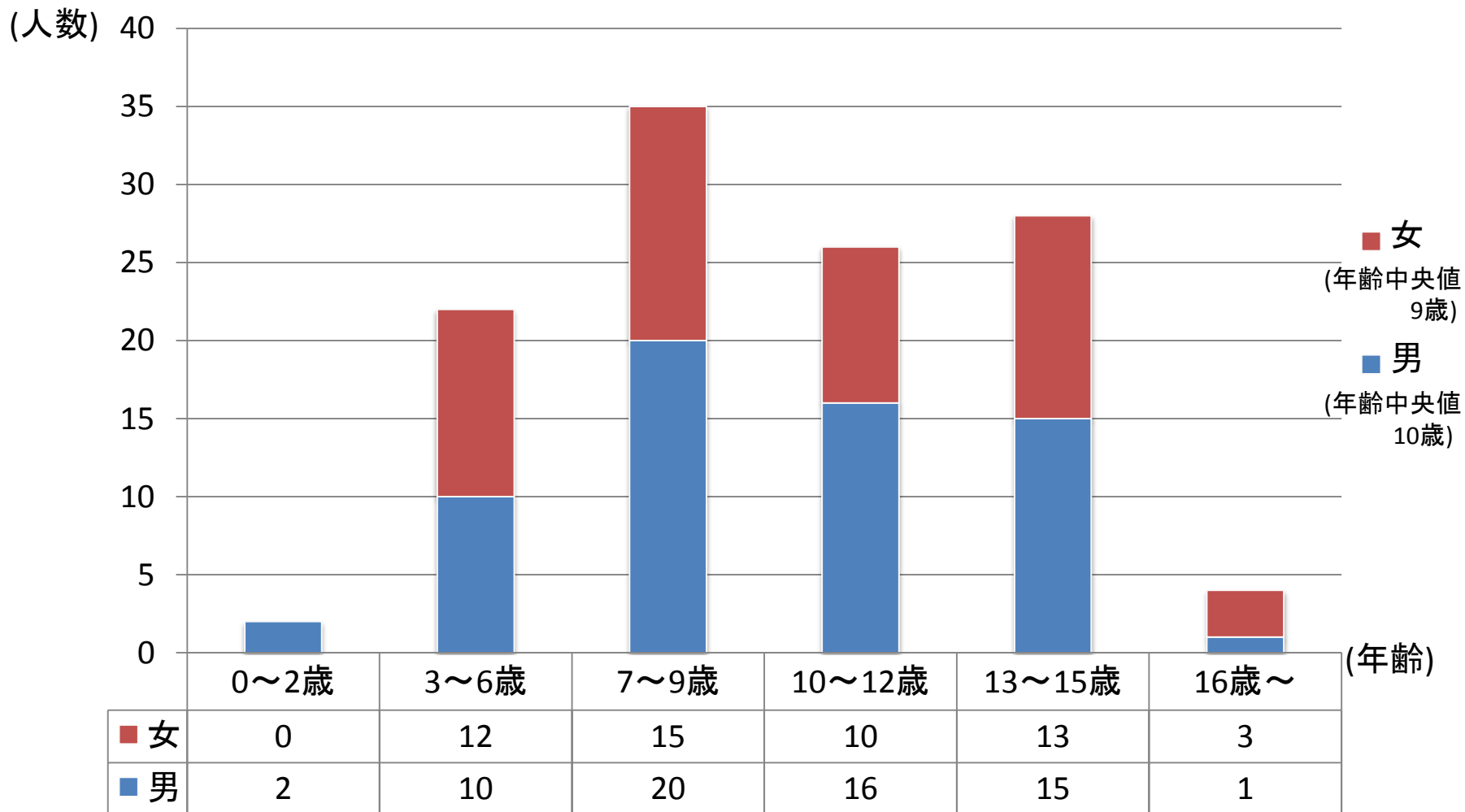
肺炎マイコプラズマ(以下Mpn)感染症でマクロライド系薬剤(以下MLs)に耐性を有するMpnの増加が問題となっている。一般診療所におけるMpn感染症の実態を調査した。

<対象と方法>

2007年1月から2011年12月までに気道感染症状を訴え、山辺こどもクリニックを受診した患者さんからMpn感染症を疑って許可を得て採取した咽頭拭い液578検体(男308検体、女270検体)の分離培養した。その結果117検体(男64検体 年齢中央値10歳 範囲2歳～16歳、女53検体 年齢中央値9歳 範囲3歳～45歳)からMpnを分離した。さらにMpnのシーケンス法を用いてMLs耐性遺伝子変異を有するか検討した。

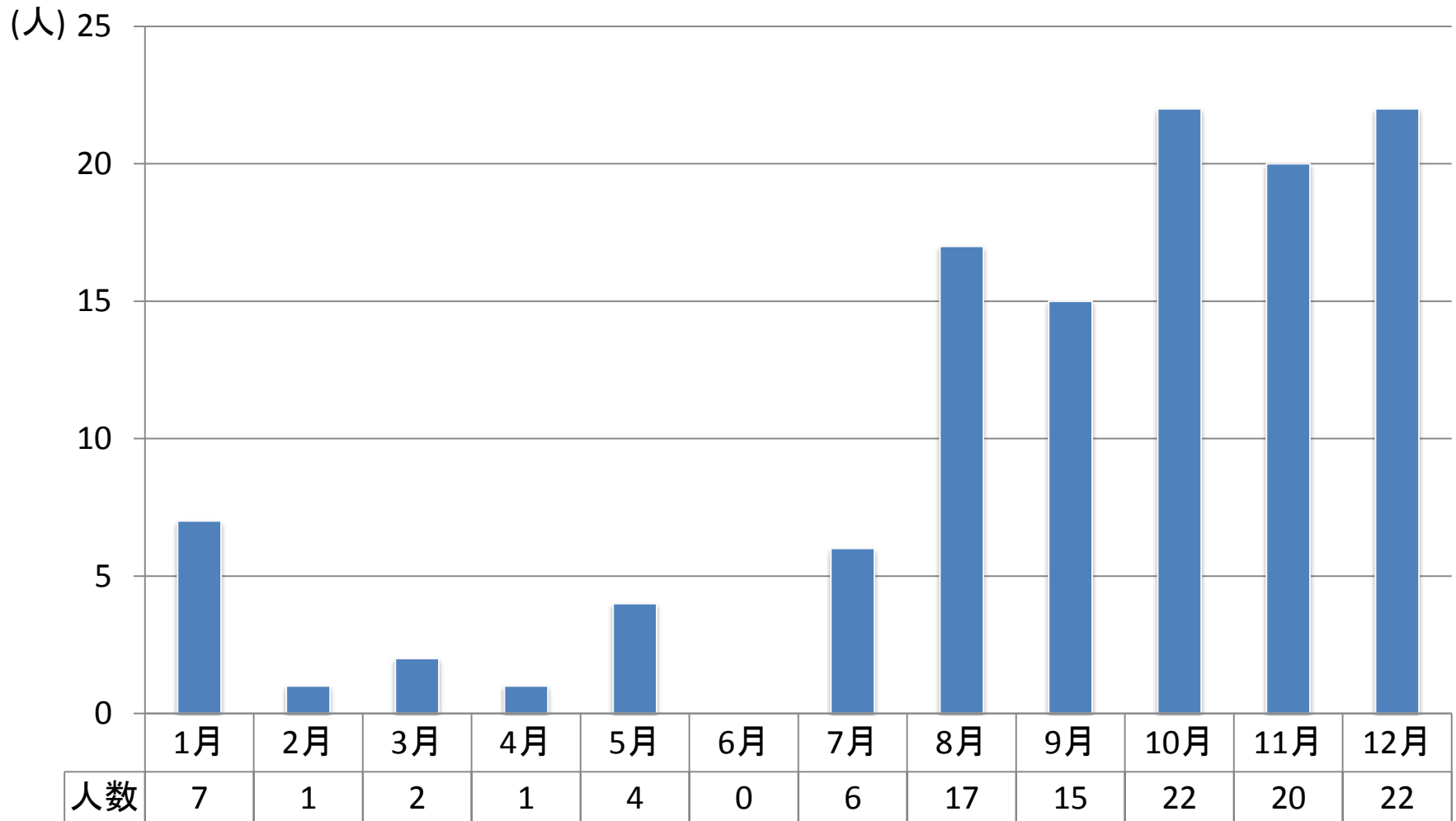
肺炎マイコプラズマ 年齢別感染者数

(山辺こどもクリニック 2007～2011年)



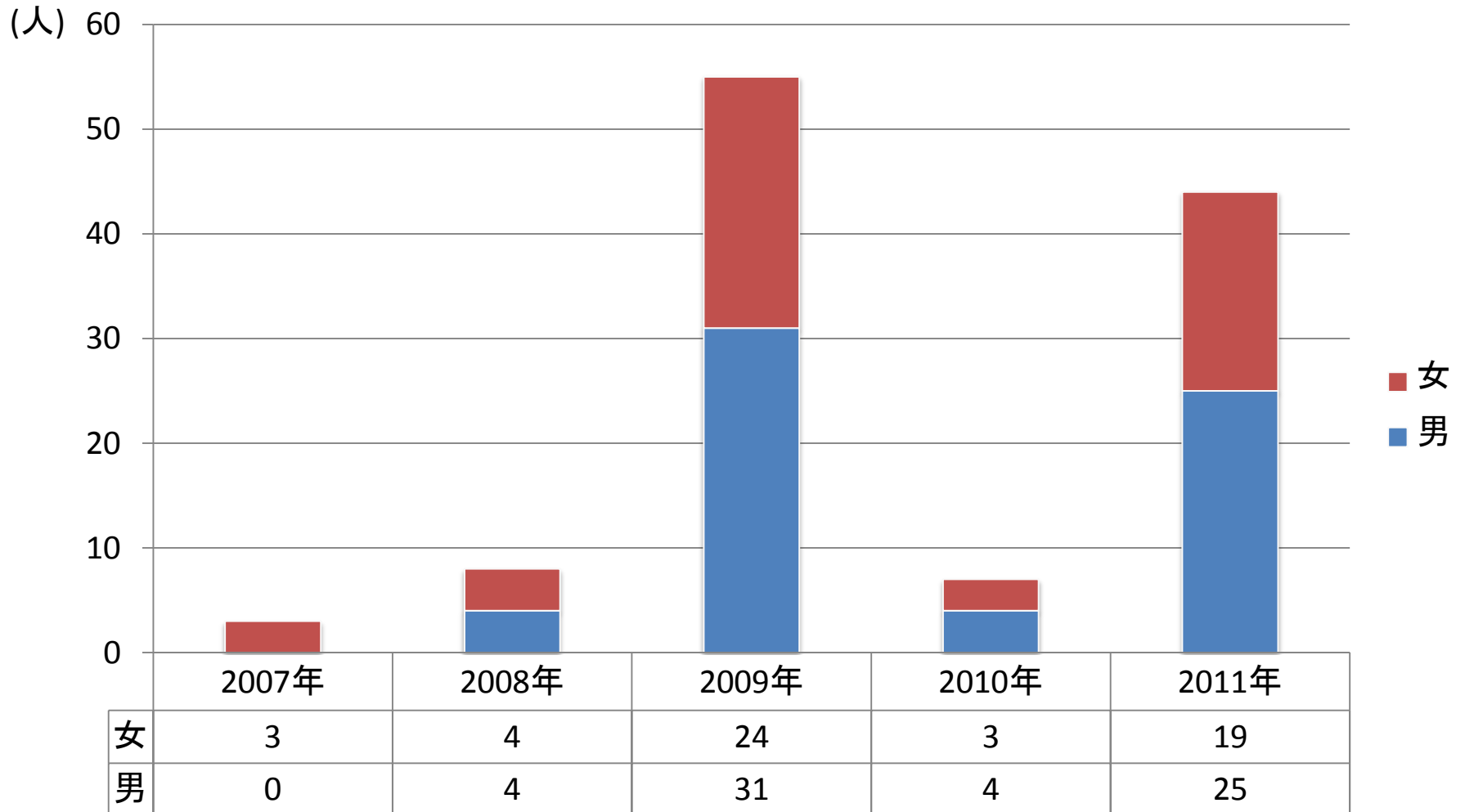
肺炎マイコプラズマ 月別発生数

(山辺こどもクリニック 2007～2011年)

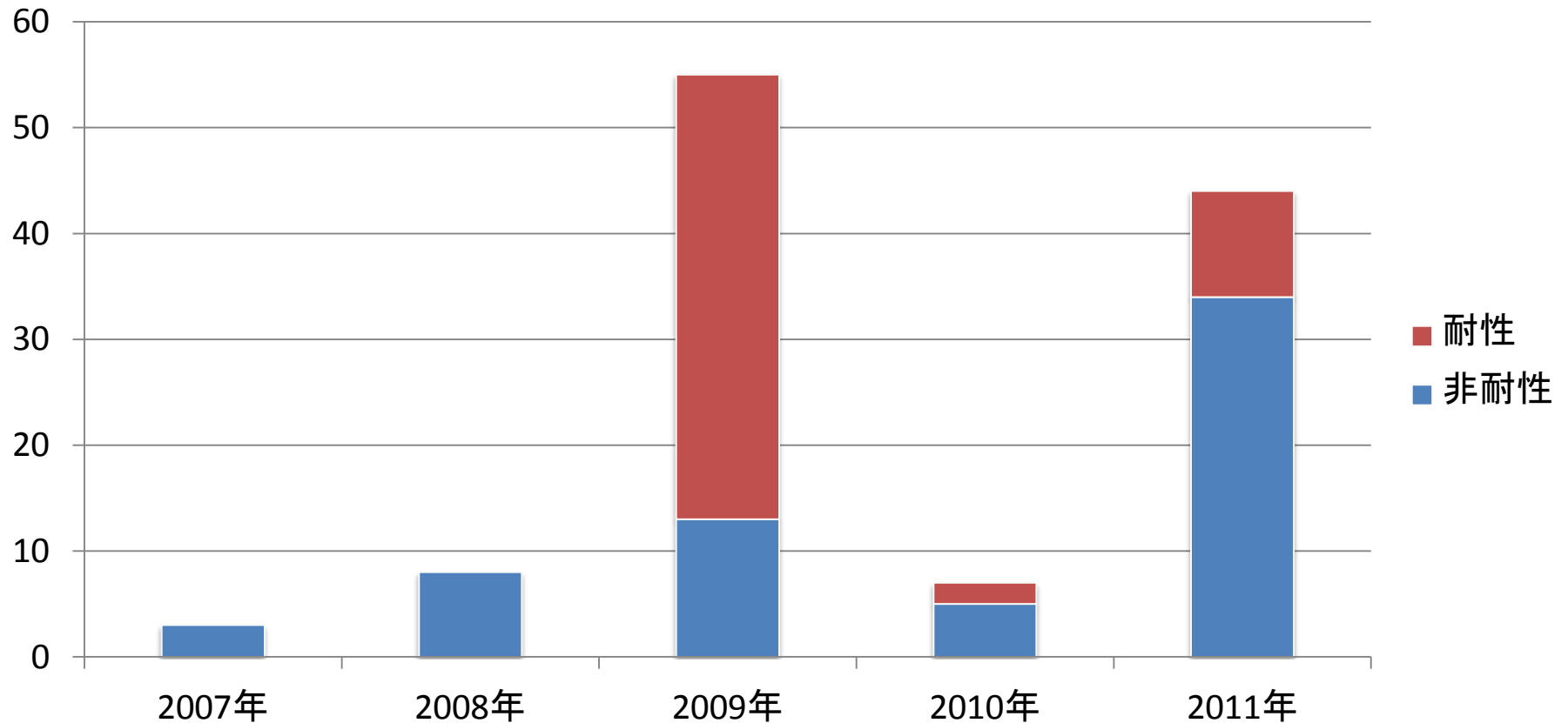


肺炎マイコプラズマ 年度別発生数

(山辺こどもクリニック 2007～2011年)



マクロライド耐性肺炎マイコプラズマ 年度別頻度



	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年
A2063G	0	0	76.4%	28.6%	22.7%
A2063T	0	0	0	0	20.5%
C2617G	0	0	76.4%	14.3%	0
C2617T	0	0	0	14.3%	0
	0	0	0	0	2.2%

肺炎マイコプラズマの流行 2009年

— 地域発生と耐性率 — (A2063Tが主体)

	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	計
山辺町			1		6	11	9	13	4	1	1	46
耐性			-		6	9	9	11	4	1	1	41
耐性率(%)			0		100	81.8	100	84.6	100	100	100	89.1
山形市	1	1	2			1	2				1	8
耐性	-	-	-			1	1				-	2
耐性率(%)	0	0	0			100	50.0				0	25.0
中山町										3	2	5
耐性										-	-	0
耐性率(%)										0	0	0.0
計	1	1	3		6	12	11	13	4	4	4	59
耐性	-	-	-		6	10	10	11	4	1	1	43
												72.90%

肺炎マイコプラズマの流行 2011年

— 地域発生と耐性率 — (A2063G耐性が主)

	8月	9月	10月	11月	12月		計
大江町	1	3	5	3	—		12
耐性	1	1	1	3	—		6
耐性率(%)	100	33.3	20.0	100			50.0
寒河江市	1		2	5	2		10
耐性	1		—	—	—		1
耐性率(%)	100		0	0	0		10.0
山形市			1	4	8		13
耐性			—	1	—		1
耐性率(%)			0	25.0	0		7.7
山辺町	1				3		4
耐性	—				—		—
耐性率(%)	0				0		0.0

まとめ

- 1) 2009年と2011年に流行を認めた。
2009年は山辺町でA2063Tが流行した。
2011年は大江町でA2063Gが流行した。
地域ごとに流行月が異なり、A2063Tは山辺町以外に大きな流行は引き起こさなかった。
- 2) A2063Tは2009年度にのみ発生した。
- 3) A2063Tがクラス内で流行しても、MLs感受性Mpnで発症した症例もみられた。
- 4) A2063Gによる耐性化率は地域によって異なっていた。

課題

- どのような症例でMLs耐性肺炎マイコプラズマ感染症が起きているのか調査が必要
(臨床経過、治療薬と投与日数、服薬コンプライアンス など)
- MLs耐性肺炎マイコプラズマ感染を減らす治療法の検討が必要
(治療薬と投与日数、年齢による治療薬 など)